

“令和八年度お寺の活動が始まります”
～門信徒会年次総会開催！～



横河川左岸に唯一残る桜の木と八ヶ岳の峰々 (6.4.13)



発行所
 岡谷市郷田一丁目6番3号
 TEL(0266)22-2524
金松山 敬念寺
 発行
敬念寺門信徒会
 編集
会報組織委員会
 朝7時はみ仏さまや
 彼(か)の人との
 出会(であ)いの時間

小僧の目

十五年前の三月十一日午後東北地方を中心とした東日本大震災が発生いたしました。▼二万人を超える方々がお亡くなりになり各種報道や紙面を通してその時の悲しさが伝えられています。▼現実には未だ現地では再興の途中であり、希望を見出す人や年月を経ても時が止まり悲しみの思いを抱え続けている方もおられます。▼当時被災を経験していない私には、到底その思いを理解することはできないと思います。▼人生を一変させてしまう自然災害の恐ろしさをあらためて感じるのです。災害において人類のいとなみは脆いものだと痛感いたします。▼世界中を見渡せば災害だけでなく戦争や紛争が多く起こっています。▼何千何万のいのちが失われているという現実、歴史文化・思想・倫理観・宗教観がそれぞれ異なることですが、人が人を殺めることは決してあつてはならないことです。▼「私のいのちが尊いことは、同時に私以外のいのちもまた尊い」違いはあれども、いのちがみな等しく尊いものであるということをしつかりと受け止めていかなければなりません。▼悲しみに出遇ういのちに対し直接できることがなくても、その同じいのちが悲しんでいることに思いを寄せることが大切です。▼仏さまのようにできないことですが、身の回りの関係のあるいのちだけでなく、関係性が薄く感じられるいのちに対しても自分の身に引き寄せ「もの身になる」ことを持ちたいものです。▼人の苦しみや悲しみに寄り添って生きるということは、宗祖親鸞聖人が「世の中安穩なれ 仏法ひろまれ」と呼び掛けてくださった世界の実現に向かつていく一つの手立てであります。▼それは、厳しいご縁だけでなく喜びや楽しみを共有していける、豊かなところを持つていきえることに繋がっていくことであると思います。

釋 宏真

ご寺院行事

- 4月25日(土) 門信徒会年次総会 後 4:00
- 8月 2日(日) 新盆合同法要 前10:00
- 8月16日(日) 孟蘭盆法要 前10:00
- 9月23日(水) 秋の彼岸法要 前10:00

ご定例法話会

- 4月20日(月) 講師 義本弘導さん(大阪府)
- 5月20日(水) 講師 中原昭俊さん(兵庫県)
- 6月20日(土) 講師 雲林重正さん(新潟県)
- 7月20日(月) 講師 加藤 学さん(三重県)

いずれも毎月20日 夜7:00からです。

— お寺から —

◇敬念寺の今

門信徒の皆様にはお支えをいただき、敬念寺並びに敬念寺門信徒会の活動にご協力いただき感謝申し上げます。令和七年度の活動も終え新年度に向けての準備・計画をしておりま

す。寺院の活動は、表面的には法要や儀礼を取りおこなうことが多いことですが、同時に「み教え」を流布すること伝道・布教が重要です。

住職の勤めは法要儀礼の導師を司るだけでなく、「み教え」を伝えることと同時に集う仲間をまとめていくことが必要であります。

最近の寺院の様子は、人垣が小さくなり以前のような活気が失われております。

法要行事への参加は減少し、お寺においての「集い」は以前のように開催できなくなってきました。

この原因は多岐にわたりますが自戒を込めて、現住職の職責への取組が足りなかったことが大きな要因であります。

住職を継職してから六年が経過しています。この間コロナウイルス感染症による影響が寺院活動にも大きく影響されたとはいえ、その中にあるべきこと、できることはあったと思っております。

現在のお寺の状況は突然生じたものではなく住職の責に負うところが多いと深く反省をするところでありま

◇お寺に集う仲間づくりを早急に構築

寺院活動は「教え」に基づいて行われておりますが、その「教え」を伝える寺院側、特に住職の姿勢・考え方が大きく影響します。

新年度を迎えるにあたり今後の寺院・住職の今後の方向性を示していきたいと思ひます。

お寺は門信徒の皆様を支えられ継続しております。前任職（釋玄真）が往生して二年が経ちました。お寺の様子も変化してきています。

前任職と共にお寺の役職を担ってくださった方々も寺役を降りられ、少なくなつてまいりました。必然的に現住職と共に住職の役職（門信徒会）につかれる方は少なくなつてい

きます。現在お寺を支えてくださる寺役を受けておられる方々は前任職とのご縁の方がほとんどです。

門信徒会現役職についていたたいしている方々には多大なる負担を強いている現状です。「み教え」に集う仲間づくりを住職中心に早急に構築することが必要であります。

◇教えに出会う場を増やしていく事

現在、葬儀や法事の中でご法話を

させていただく場はありますが、そのほかに「み教え」を伝える場は多くはありません。

毎月二十日の法話会や朝のおまいりに短い法話をすることで「み教え」を伝えていくのが現状です。

伝道布教を柱とするお寺の活動としては消極的です。

一般的な言いまわしですが、お寺は「教義をひろめ法要儀式を行い、門信徒を教化育成する」ことを目的としていきます。言い換えれば教えに出会い、よりよい人生を歩むことが

大切で、住職としてこれまでの歩みで足りなかつた点等を確認し、一人でも多くの門信徒がみ教えに出遇っていた

だけるよう学びの場や研修会を開催してまいります。

具体的な活動としては、「み教え」やお寺の活動への理解を深めていただくための初級講座の実施、抱える思いを語れる場（法座・茶話会）などの定期的開催などを計画・

実施してまいります。門信徒の皆様には現住職（釋宏真）をお支えいただき、ご理解とご協力、またご参画いただきますようお願いいたします。

◇住職より門信徒へのお願い

前述のとおり、お寺の現状は参拝者減少・寺院組織役員減少等、住職が率先すべき問題解決への推進を停滞したことにより、門信徒の方々に

はご迷惑ご心配またご不便をおかけしており申し訳ありません。

新年度から挽回をするため寺院活動を活性化してまいります。

つきましては、住職・門信徒会よりご案内やご依頼をさせていただきます。お願い申し上げます。

「寺門興隆 念仏相続」を掲げ、住職と共に協力いただきますようお願い申し上げます。

現代社会はいろいろな問題を抱えています。大きな社会で申せばテロや武力紛争、経済格差、地球温暖化、エネルギー問題、差別を含む人権の

抑圧といった生存に関わる困難な問題が山積みであり、身近には少子高齢化や価値観の変化などいのが問

われています。ただ漫然と人生を送るのではなく、寺院の活動にご参加いただく中に

仏さまの教えを聴き「いのち」の学びをさせていたただきながら、心豊かに生きてまいりたいものです。

お寺は悲しみを縁にすることが多いことですが、「いのち」の学びにあつて喜びを感じる場でもありま

す。そして、住職は仏法を伝える立場ですが、門信徒の皆様と同様に、み

教えに「いのち」を問ひ続ける一人であります。

共に学び共に生きる者として、寺院活動を中心にお仲間の一員に加わつていただきたいと思います。

釋 宏真

令和七年度 各委員会活動報告

常任委員会

会長 千原 博幸

当年度は、主要行事として①長野市の名刹・康楽寺と御開帳の北向観音・浄楽寺を参詣する日帰り親睦旅行の実施、②報恩講法要の作品展開催とお斎の接待を行い、参拝者から好反応を戴きました。一方、お朝事・日曜礼拝へのお参りや、法話会・法要・行事への参加者の漸減傾向が進んでおり、寺院活動を支える青壮年層人材の発掘・育成と寺院参拝の世代引継ぎが急務の課題です。

主な活動としては、①寺院で開催される各種の法要・行事への奉仕協力、②寺院営繕・保守事業の推進・支援、③寺院・門信徒会の重要課題である「次世代人材発掘&育成」「地区世話人体制課題」の検討・推進を行い、寺院活動に協力しました。

新年度に於いては、「寺院・門信徒会の最重要課題である次代を担う青壮年層人材の掘り起こし・育成事業を、現役員体制を一年延長して強力に進めたい」という住職からの強い要請を受け、令和八年度に役員更

改期となる役員任期を一年延長して取り組むことの可否を門信徒総会に諮り、住職主導で取り組むこの喫緊な重要課題に住職と一体となって重点で進めて参ります。

教化委員会

委員長 新井 滋平

ご住職とともに「日帰りの『親睦・研修旅行』を実施しました。参加者二十三名(内、ご夫婦五組)で、訪問先は「開創千二百年で六十四年ぶり前立本尊御開帳の『北向観音・常楽寺』」、「敬念寺とゆかりのある『康楽寺(長野市篠ノ井)』」、「戦後八十年にあたり『戦没画学生慰霊美術館の『無言館』」でした。紅葉を愛でながらバスの車中も和やかで、参加者の交流・親睦になりました。

「報恩講」は、「思いどおりにならない日々」に寄り添う仏さま」と題してのご講師のお話もわかりやすく、「コールガンダーの讃歌」とともに心を打たれました。昨年度から復活した「お斎(敬念寺汁付き)」も大変好評でした。

協賛の「作品展」、参道を埋め尽くした見事な菊花を中心に多くのみなさまの丹精込められた作品を出展していた、いただきました。

宗門活動への協力としては、本山や長野教区並びに松本組の主管行事や関連行事に参加しました。

最近、寺院や門信徒会の諸行事や活動に参加される方が、減少してき

ております。ひとりでも多くのみなさんが、つどい、親しく語り合い、自他ともに心豊かに生きることの大切さを実感できる機会を、少しでも多く設けるよう模索してまいりたく存じます。引き続き、みなさんのアイデアをぜひお寄せください。

財務委員会 ―感謝の一言―

委員長 西山 周治

財務委員になり九年目が終わるとともに無事、今年度も終わりました。

今年度も門信徒会費・護寺協力金の納入にご協力賜り厚く御礼申し上げます。お蔭様で一年間の門信徒会活動を終了することが出来ました。

今年度は、門信徒会費・護寺協力金共に予算を上回る納入を賜りました。心より御礼申し上げます。

しかしながら、年度当初から収入・支出共に抑え気味の予算建てをした経過が有ります。実際に以前実施していた行事を実施しなくなったため費用発生が抑えられています。(フアミリー参拝・早朝連続参拝)

教化委員会の皆さんの努力も空しく、やむを得ず、行事を中止せざるを得ない現状が有ります。

門信徒会としては、痛し痒しです。門信徒活動がもっと活発になつて欲しい。門信徒の皆様のお顔をもっとお寺で見たい。もっとお参りにお寺に寄ってほしい。

多くの方が集えば、自ずと魅力ある行事が計画できるようになります。

婦人部

部長 小原 久代

す。どうぞ、お寺を支えてください。お寺に集ってください。

婦人部長を二年間務めさせていただきました。活動を通して少しばかりですがお寺への貢献をしてまいりました。報恩講の「お斎」のお手伝い、コールガンダーの報恩講での発表、菊花の展示等の活動をしてまいりました。

また、会員の親睦会である「お楽しみ会」を行い、皆さんの明るい笑顔に接することもできました。会員はじめ皆様のご協力に感謝申し上げます。

会報組織委員会

委員長 白田 正夫

今年度も三回「敬念寺だより」を発行させていただきました。

また、発行の都度、PDFにして記録保存し、ホームページにも掲載しています。

お寺の行事の様子をお伝えするとともに、「寺報」としてお寺からの情報発信など、「み教え」の広がりや深まりに役立てるように工夫し掲載してまいります。

お世話人不在の地区が増えて、配布に時間がかかる場合がありますが、ホームページのPDFをまずはご覧ください。

トピックス

寺院の照明器具LED化工事ほぼ完了

2027年未だ蛍光灯の製造が終了するため、寺院の照明器具をLED器具に更新する工事を実施しました。様々なタイプの器具があったり、高所での作業等で大変だったと思いますが、ほぼ工事が完了しています。

春彼岸法要厳修

三月二十日に、敬念寺令和八年春彼岸法要が厳修されました。法要後、ご講師の日野宗邦さん(新潟県)によるご法話を聴聞させていただきました。親鸞様にまつわる歴史・伝承などを交えての興味深いお話でした。法話終了後、湯茶の接待

があり参拝者が和やかに歓談することができました。



ご講師の法話のようす(8.3.20)



(会館ホール天井の工事のようす)



法要後の茶話会でのひとこま(8.3.20)

令和七年報恩講法要のようす



全員でのお勤めのようす(7.11.9)



コールガンダーの仏教讃歌発表(7.11.9)

令和八年度 門信徒会年次総会開催の御案内

- 一日時 四月二十五日(土) 午後四時
- 一 場 所 敬念寺「本堂」
- 一 議 題 令和七年度事業報告・決算報告
令和八年度事業・予算案承認の件
役員改選の件
その他

★代議員であるお世話人の皆様には、別途往復ハガキで開催通知をお送りします。期日までに出席の連絡をお願いします。
★今年も、年次総会終了後の「懇親会」を計画いたしました。有意義な懇談となるよう多くの皆様のご参加をお願いいたします。